

投稿

ペルー便り

～①大都会の小さなプラネタリウム～

根本しおみ（ペルー地球物理研究所 ムツミ・イシツカ プラネタリウム）

1. はじめに

Mi sueño es, que en el futuro, hayan astrónomos y los astronautas que sean Peruanos. Y si estos astrónomos o astronautas digan que: “De niño, me interesé en la astronomía. porque visité el Planetario del Instituto Geofísico del Perú.” Esto me haría feliz.

（訳：私の夢は、将来、たくさんのペルー出身の天文学者や宇宙飛行士を見ることです。そして、そんなペルー出身天文学者や宇宙飛行士が「私は子供の頃に、天文に興味を持ちました。ペルー地球物理研究所のプラネタリウムを見たからです。」と言ってくれたら、私は幸せです。）

今年の6月21日、JICAのシニアボランティアとしてペルーのプラネタリウムに赴任しました。初めて、海外で天文学の教育普及のお手伝いをするようになったのですが、文化も違えば季節も逆の国で、これから2年間、試行錯誤の始まりです。

2. 首都リマ

私がペルーに来た6月21日（日本では夏至、ペルーでは冬至の日）から、9月23日（日本では秋分、ペルーでは春分の日）までがペルーの冬です。私が住むリマでは、この冬の3ヶ月間、滅多に太陽を見ることはありません。ましてや星をや、です。

首都リマは「ペルー」という国名から想像する雰囲気とはかけ離れた大都会です。マクドナルドやKFC、スターバックス、ピザハットなど、見慣れたチェーン店がそこら中にあり、24時間営業のスーパーマーケットも珍し

くありません。ちなみにリマは海沿いの街なので標高は高くはありません。（「ペルーに住んでいる。」と言うと、よく「標高はどのくらい？」と聞かれるのですが、東京と同じくらいです。がっかりさせてごめんなさい。）大量に走っている中古車、治安も良いとは言えないので夜は街灯が煌煌と灯り、大気汚染と街灯りで、夜晴れたとしても星の「見えなさ」は東京をはるかに凌ぐほどです。

3. ペルー唯一の国立プラネタリウム

ペルー地球物理研究所のムツミ・イシツカプラネタリウムは、リマの中心部から車で30分くらいのAteというところにあります。2008年、日本の文化無償資金協力でペルーに贈られました。五藤光学製で、座席数は40、ドーム径は7.5mです。



図1 プラネタリウム入り口にあるムツミ・イシツカ プラネタリウムの表示

プラネタリウムの名前になっている石塚睦さんは、50年以上の長きに渡ってペルーの天文学の発展に尽力して来られた方で、今もその気概の衰えない方です。その息子さんのホセ・イシツカさんは、現在、地球物理研究所の天文学部門の長で、私たちの上司です。天文学を愛する者として、このような方々のそ

ばで働けることは、幸せだと思っています。

4. ペルースタイル

4.1 ペルーのお客様

プラネタリウムは、月曜日から土曜日までは学校やグループでの予約制、日曜日は一般向けに予約なしで一日5回の投影を行っています。一応、日本のプラネタリウムと同じように、「携帯はしまして下さい。」とか、「飲食はしないで下さい。」というテロップは流すのですが、携帯を出して見ているなんてよくあることで、お菓子は食べるは、立ち歩くは、ペルーのお客様はとても「自由」な雰囲気で見学しています。日本だったら即注意するところなのですが、予約で来るお客様はお互い知り合い同士なので、「他のお客様のご迷惑」でもないし、まあいいか。こんなリラックスした雰囲気なので、お客様の反応は子供から大人まで非常に良く、何か問いかければ必ず答えてくれます。

4.2 ペルー人のライフスタイル

平日は学校団体が来てくれて、それなりに賑わうのですが、日曜・連休・学校の長期休暇はお客様が非常に少なくなります。日本では稼ぎ時の、学校が休みの時にお客様が来ないのは、ライフスタイルが違うからです。ペルーでは教育熱心な富裕層は、休みになると海外旅行や別荘に出かけてしまってリマにはいなくなってしまいます。また、子供が学校でプラネタリウムに来て面白いと、また家族と来てくれる、という日本のようなパターンも無いようです。親がプラネタリウムというものを知らないのだから、家族で行こう、という発想が無いのだと思います。プラネタリウムに来てくれないと、プラネタリウムを使った天文学の教育普及もできないので、ここがこれからの課題です。

5. おわりに

ペルーに来て3ヶ月、9月のある日、台所で朝食の支度をしていると、窓の外の白い空に何やら丸くてオレンジ色で光っているものが見えました。「何だろう？」と、一瞬、何かわからなかったのですが、それは太陽でした。太陽を見て一瞬何だかわからないとは、私もすっかり Limeña (リマの住人) になったものです。 ¡Hasta luego! (では、また!)



図2 研究所の近くにある cerro (砂山) と huaca (遺跡)。未発掘の遺跡がすぐそばにあるところは「ペルー」らしいです。

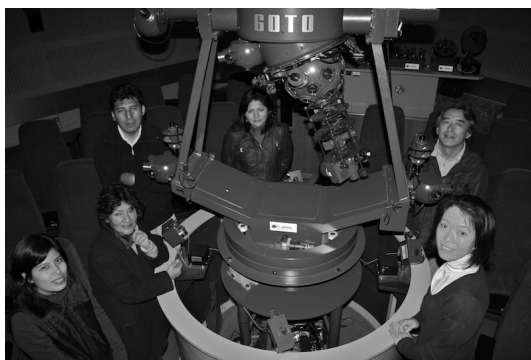


図3 ペルーの同僚たち (左端から、Nayi、Lita、Edwin、Adita、Dr. Jose Ishitsuka、著者)

根本しおみ